

管内の概況

位置・気候

管内の西部を南北に北見山地、南部を東西に千島火山帯が走り、北東部は280kmにわたってオホーツク海に接し、3市14町1村で構成されています。

気候は、冬期間の寒さは厳しいものの比較的穏やかで、年間平均降水量が800ミリ程度と少なく、日照時間に恵まれた地域です。

沿岸部ではおおむね1月下旬から3月にかけて、オホーツク海特有の流氷により海面が覆われます。しかし、地球温暖化の影響を受け、近年は減少傾向となっています。



能取岬と流氷（網走市）

産業

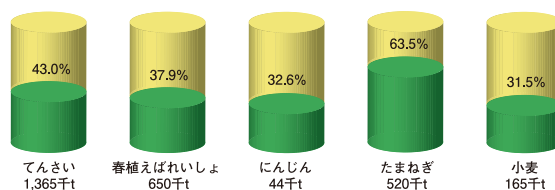
農業

管内の農業は、畑作と酪農を中心とした大規模農業が展開され、我が国の総合食料基地として重要な役割を担っており、耕地面積は16万6,400haと全道の14.5%（平成28年）を占めています。

畑作物では、寒冷地に適したてんさい、春植えばれいしょ、たまねぎと小麦を中心とした野菜類が主に作付けされています。また、畜産では、酪農、肉用牛生産が中心となっています。

出典：オホーツク振興局「オホーツクの農業2016～統計編～」

主な農産物の道内生産量シェア（H28）



出典：農林水産省 作物統計調査（平成28年）

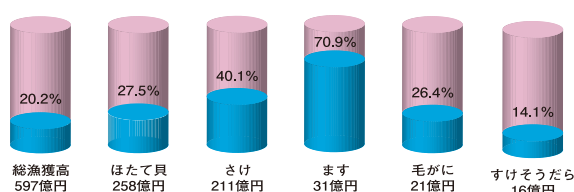
水産業

管内の水産業は、オホーツク海沿岸を漁場とするほたて貝けた網漁業、さけ定置網漁業並びに沖合海域を漁場とする沖合底引き網漁業を中心に営まれています。

平成28年のオホーツク管内の漁業生産は全道の20.2%を占め、数量で17万4千トン、金額で597億円となっています。

出典：北海道水産林務部「平成28年北海道水産現勢」

総漁獲高と上位5品目の道内シェア（H28）



出典：北海道水産林務部「平成28年北海道水産現勢」

商工業

管内の工業は、食品製造業、木材・木製品製造業など第1次産業に関連した地場資源利用型工業が主体ですが、携帯電話端末の主力拠点工場が立地するなど、最先端技術を用いた製造業も重要な位置を占めています。

製造品出荷額（平成28年）は、3,788億円（全道比5.8%）となっており、そのうち食料品の出荷額が2,656億円（同12.0%）と70.1%を占めています。

また、管内の商業では、年間商品販売額（平成26年）が6,692億円（全道比4.1%）となっています。

出典：経済産業省「平成26年商業統計調査」 北海道総合政策部「平成28年経済センサス北海道」

林業

森林面積は、平成29年4月1日現在、769,429haで管内総面積の72.0%を占め、全道森林面積の13.9%に当たり、所有比率は、国有林56.0%、道有林14.0%、市町村林4.4%、私有林25.6%となっています。

総蓄積は、142,291千m³で全道森林蓄積の17.9%を占め、道内の主要な木材生産地となっています。

樹種別蓄積量は、トドマツ・エゾマツ・カラマツ類等の針葉樹が64.1%、ナラ類・カンバ類・シナノキ等の広葉樹が35.9%となっています。

出典：北海道水産林務部「平成28年度北海道林業統計」

観光

管内には、世界自然遺産に登録された知床と阿寒摩周の2つの国立公園、ラムサール条約登録湿地の湧沸湖を含む網走国定公園のほか、2つの道立自然公園があります。山岳、湖、海などの豊かな自然景観とともに流氷、サンゴ草など他の地域には見られない四季折々の多彩な観光資源に恵まれています。

管内を訪れる観光客の入り込み数は、836万人（平成28年度）となっており、夏型のイベントに加えて、流氷や冬のスポーツを利用した冬型のイベントも各地で盛んに行われています。

出典：北海道経済部観光局「各年度北海道観光入込客数調査報告書資料編」

管内の総入込数及び外国人宿泊客の延人数の推移

